

「偶像の本質」 イザヤ書 44 章 9-20 節 レジメ

2024 年 6 月 23 日 礼拝

序論

先週はイザヤ書 44 章前半を通して、神様だけが聖霊を与え、この世の最初と最後を定める唯一の神であることを学んだ。本日は、偶像の本質について学ぶ。

1. 偶像に関する 3 つの本質

- ①偶像を造る者(偶像礼拝者)は、みな空しい。
- ②偶像は何の役にも立たない。
- ③偶像作成者と礼拝者は恥を見る。

最終的な結論 ①偶像を造る者(偶像礼拝者)は、みな空しい

2. 偶像についての 3 つの分析

1. 偶像作成者

- 作成者はただの人間であり、疲れたり飢えたりする
- 対して、神様は言葉一つで世界を創造

2. 偶像のモデル

- 偶像は、人の形など、神の被造物を参考にして造られている (44:13)
- 神様を見て神様のかたちで造られているわけではない
- 偶像は神のかたちを真似た偽物に過ぎない

3. 偶像の素材

- 偶像の素材は木などの人が育てたり、大雨によって育てられたりしたもの
- それらは人間に利用されるだけのもの。だから、偶像は役立たず。
- 木で造られた偶像は薪として燃やす方が有益

3. 偶像礼拝者の実情

- 偶像礼拝者は薪の別の姿を拝んでいるようなもの
- 偶像礼拝者のその愚かさと気づかない (44:17-19)
- 偶像礼拝は空しい人生を歩んでいる (44:20)
 - 偶像礼拝者は灰を食物とするようなもの

結論

- 偶像礼拝の空しさを認識した
- 偶像礼拝は木の像を拝むだけじゃない
- 貪欲に生きることも偶像礼拝である。(コロサイ 3:5)
 - 「貪欲」とは、人の心を神様から引き離し、この世の物で自分を満たそうとする事
 - イエス様も貪欲に対して警戒しなさいと言われている(ルカ 12:15)
 - 貪欲の実例 : 性的快楽を求める。食べ物を貪^{むさぼ}る。買い物依存症。動画やゲームにハマりすぎる。
- 真の満足は神との関係にあり、【主】イエス・キリストによってのみ得られる
- 【主】は「わたしが神だ」と言われている。 真の神により頼むことで、実りある人生を歩む